

# 鶴見大学 中期目標・計画(2024年度報告)

(進捗状況：S:極めて適切に実行している、A:適切に実行している、B:概ね実行している、C:必ずしも実行していない)

## 【I. 教育】1.高大接続の円滑化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
定員管理	R4(新)各学部、学科、研究科の定員充足	入試センター事務部	各学部の入試対策委員会を通じ、定員充足に向けた審議を行う。	充足に向けた具体策を各学部の入試対策委員会にて審議し実行する。オープンキャンパスや高校訪問、高校教員へ向けたガイダンスなど本学の魅力を伝えられるような施策を検討する。	【期末報告】 ・高校ガイダンス・高校訪問・オープンキャンパス等の対応で本学の魅力を訴求し続けたものの、入学定員充足には及ばず、2025年度に向け動員から魅力訴求まで根本的な対策が必要である。	C	50%
入試判定基準の見直しによるAPの実質化(大学教育に相応しい学生の選抜)	入試区分別の成績(GPA含む)推移・学修態度の検証	入試センター事務部	入試区分別の成績推移・学修態度の検証を行う。	各学部の入試対策委員会において入試区分別の成績推移・学修態度の検証を行い、入試日程や選考方法の策定に生かす。	【期末報告】 入試区分別に入学者等の学修状況について検証を行い、設定している入試には基本的に大きな問題はみられなかったが、歯学部外国人留学生の学修状況を鑑み、出願にあたり日本語能力検定試験において一定の成績を求める予定である。	B	70%
	総合型選抜、学校推薦型選抜等、推薦入試の妥当性についての検証	入試センター事務部	各学部の入試対策委員会において、総合型選抜、学校推薦型選抜等、推薦入試の妥当性についての検証。	文学部、短大部、歯学部とも各入試対策委員会にて次年度の入試概要を審議する際、総合型選抜、学校推薦型選抜等、推薦入試の妥当性についての検証する。	【期末報告】 各入試対策委員会において、妥当性を検証しつつ次年度の入試概要を審議し、学修状況に影響のない範囲で受験機会を拡大すべく、学校推薦型選抜の推薦基準見直しや新たな総合型選抜の選考方法取り入れなどを行う予定である。	C	50%
	奨学金(入学金・授業料減免)による優秀者確保	入試センター事務部	歯学部では個別選抜型1期(新入生特待奨学生選抜試験)にて奨学生を確保する。 文学部では奨学特待生選抜試験において奨学生を確保する。 短大部では新入生特待奨学生選抜試験において奨学生を確保する。	歯学部では個別選抜型1期(新入生特待奨学生選抜試験)にて奨学生を確保する。 文学部では奨学特待生選抜試験において奨学生を確保する。 短大部では新入生特待奨学生選抜試験において奨学生を確保する。 歯学部と短大部では、年内に合格した受験生(編入学、外国人留学生特別選抜除く)にも新入生特待奨学生選抜試験にチャレンジできるようにしている。	【期末報告】 歯学部では新入生特待奨学生及び入学奨学金対象者合計10名が入学、短大部では新入生特待奨学生対象者保育科7名・歯科衛生科9名が入学した。文学部は4学科計10名が受験したものの、対象者の入学には至らなかった。 次年度に向けては、奨学生に相応しい人物を選考すべく、制度や選考基準を見直す予定である。	B	70%
総合型選抜、学校推薦型選抜入学決定者の勉強習慣獲得と弱点克服(入口から中身への円滑移行)	体系的な入学前準備教育プログラムの構築(e-ラーニングを活用した事前課題及びスクーリングの開催)	教務事務部	[文学部]12月までの入学予定者を対象として、必修で入学前準備教育課題を実施する。 [歯学部]入学までに初年時教育を円滑に受講できるようにするための必要な基礎学力を身に付けさせる。 [保育科]入学予定者全員に入学前教育課題を送付。教員が添削して返却する。ピアノの入学前個人レッスンを実施する。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。	[文学部]12月までの入学予定者を対象として、必修で入学前準備教育課題を実施する。 [歯学部]12月までの入学予定者を対象(任意)に東進ハイスクールナガセの入学前準備教育(DVD講座)を受益者負担で実施予定。manabaを利用し一般教育科目に関する問題演習を実施予定。 [保育科]入学予定者全員に入学前教育課題を送付。教員が添削して返却する。ピアノの入学前個人レッスンを実施。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。	【期末報告】 [文学部]12月までの入学予定者全員(201名)を対象に課題を送付し、必修で入学前準備教育課題を実施した。(内訳)総合型選抜:日本文学科26名、英語英米文学科10名、文化財学科12名、ドキュメンテーション学科15名、学校推薦型選抜:日本文学科55名、英語英米文学科39名、文化財学科25名、ドキュメンテーション学科16名、編入学試験1期:文化財学科2名、ドキュメンテーション学科1名 [歯学部]12月までの入学予定者を対象(任意)に東進ハイスクールナガセの入学前準備教育(DVD講座)を受益者負担で実施した。(受講者23名:編入含)また、入学前オリエンテーション等を通じて、歯学部一般教育教員より、予習、復習プリント、問題演習、解説動画をmanabalにアップし学習サポートを実施した。 [保育科]入学予定者全員に入学前教育課題を提示し、ダウンロードをして各自が取り組んだものを提出するように実施方法を変更した。未提出者や3月入試で入学が決定した学生には個別に連絡をし、全員が提出した。例年通り、ピアノの入学前個人レッスンも実施した。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。必修課題は入学者93名が受講した。有料プログラム受講者は、基礎計算力完成コース1名、医療系生物入門(基礎生物①)コース9名、医療学生のための国語力入門コース3名、基礎から始める国語カトレーニングコース5名、基礎から始める数学トレーニングコース4名、コミュニケーション力養成①(PaCSあり)コース3名であった。	A	80%

【I. 教育】1. 高大接続の円滑化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進捗割 合(%)
本学の魅力を伝える外部アプローチ	附属高校との連携強化	入試センター事務部	高大連携委員を通じて、附属校との意思疎通と連携強化を図る。	本学附属高校との連携については、高大連携委員会事業計画として、様々な企画(根拠資料参照)を計画している。 また、歯学部進学への意識を高めることを企図して、附属高校の中に「歯学部コース」を設置し、理系教育強化や歯学部との連携による特別講義を行う。	【期末報告】 附属高校文化祭(光華祭)において歯学部・保育科・歯科衛生科がブース出展し、参加者と交流を行った。また、大学図書館におけるPOPコンテストに高校生徒も参加した。 英語英米文学科教員と附属高校英語科教員間にて、研究授業等で授業に関する意見交換等を行うなど、教員間の交流実績もあった。 次年度も今年度内容に基づき、企画を進めていく予定である。	B	70%
	高校訪問・予備校訪問の継続・強化	入試センター事務部	歯学部、短大部は指定校を中心に高校訪問を行い、志願者拡大を目指す。 入試センターで高校ガイダンスの際に進路指導の教員と情報交換を行う。 また、高校訪問・ガイダンスを専門に行うスタッフの委託提携を行い、指定校を中心に関係強化・新規開拓に繋げる。	歯学部では訪問(約250校)する教員に対し事前の説明会を開き、訪問の際の共通認識を図る。学納金、奨学制度の変更手を重点的に伝える。教員は訪問後、また、編入学予備校や医療系予備校日本人学校への訪問し編入学試験、外国人留学生特別選抜の志願者拡大も図る。 短大部では指定校を中心(150校)に教員が訪問し、志願者拡大を目指す。 高校訪問スタッフ(委託)は年間約430校の訪問を行う。	【期末報告】 ・歯学部228校、短大部74校、入試センター職員及び高校訪問スタッフ(委託)にて269校の訪問(やむを得ず訪問できなかった場合は資料発送)を行い、本学周知及び高校との関係構築を行った。	B	80%

【I. 教育】2. 教育課程の改善(DPの質保証)

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進捗割 合(%)
歯学部: 歯科医師国家試験合格率の向上を目指したカリキュラム改革	国家試験支援体制の整備(専門スタッフの配置等)	歯学部教務課	歯科医学教育学講座と他講座間との連携体制の強化を図ることにより、歯学部全体での国家試験支援体制の充実を図る	カリキュラム方針の策定(カリキュラム委員会・歯科医学教育学講座)、教育指導(総合歯科医学6実行委員会)、国家試験を見据えた試験問題作成(問題作成分析評価委員会)の連携強化を図る。	【期末報告】 歯科医学教育学講座、カリキュラム委員会を中心に、シラバスと歯学教育モデルコアカリキュラムとの整合性の確認や、試験成績の分析を行うことを進めている。「問題作成、成績管理、分析評価委員会」でCBTや歯科医師国家試験の分析を行った。	B	60%
	試験回数や内容の効果検証による効率化	歯学部教務課	CBT-Medicalを使用した試験の実施により、歯学教育モデルコアカリキュラム、歯科医師国家試験出題基準に合致した教育内容検証の効率化を図る。	総合企画課(旧IR推進課)と連携し、試験の内容とシラバスに記載された歯学教育モデルコアカリキュラム、歯科医師国家試験出題基準とが合致しているか検証を行う。	【期末報告】 実習を除く全ての科目でCBT-Medicalを使用した試験を実施している。総合企画課とも連携を図り、シラバスと歯学教育モデルコアカリキュラムとの整合性の確認や試験成績の分析を行うことを進めている。今年度より共用試験が公的化されたことに伴い、成績の分析を受けて授業内容に反映できるように4年生CBT対策として「総合歯科医学4実行委員会」、6年生国家試験対策として「総合歯科医学6実行委員会」を組織し、歯科医学教育学講座とも連携を図り、外部模試や不得意科目の対策の検討を行うこととしている。各学年毎のGPA分布図の作成や、CBT-Medicalにより個々の成績結果をレーダーチャート形式で作成して、フィードバックを行い、効率化を図っている。	B	50%
文学部: 学修意欲(モチベーション)を引き出す教育改革	実学志向の課題解決型アクティブラーニングの導入	文学部教務課	[文学部]科目の特性から判断して、教授法として実学志向の課題解決型アクティブラーニングが適切でかつ教育効果が高い科目において実施する。	[文学部]科目の特性から判断して、教授法として実学志向の課題解決型アクティブラーニングが適切でかつ教育効果が高い科目において実施する。	【期末報告】 令和6年度開講の実務家教員が担当している科目129科目中、83科目(64.3%)でアクティブラーニングを実施した。	B	60%
	企業人(地域との連携)の演習講義の導入	文学部教務課	[文学部]文学部共通科目のキャリア形成科目において、企業人の科目担当者が授業を行う。 [キャリア支援課]キャリア支援課講座(ガイダンス)として実施(課外)	[文学部]文学部共通科目のキャリア形成科目において、企業人の科目担当者が授業を行う。 [キャリア支援課]キャリア支援課講座(ガイダンス)として実施(課外)	【期末報告】 [文学部]文学部共通科目のキャリア形成科目「キャリアスキル演習Ⅳ」において、企業人の科目担当者が授業を行った。また、第8回から第14回の授業において、7業界の企業人がゲストスピーカーとして講演を実施した。 [キャリア支援課]6月開催のキャリアガイダンス内の職種研究講座で神奈川県中小企業家同友会の方が講師の務め、42名が参加した。11月に企業人事担当者を招いて集団模擬面接を開催。3社×3コマ×4人ずつ、34名が参加した。 ※根拠資料あり	B	60%

【 I . 教育】 2.教育課程の改善(DPの質保証)

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
文学部:学修意欲(モチベーション)を引き出す教育改革	個々の学生に合わせて多様なキャリア支援の実施	キャリア支援課	状況調査を定期的実施し、個々の学生の希望等を把握	学生ごとに担当を決め、電話掛け等の連絡を定期的に行う。教員等の協力を得ながら学生状況の把握、支援を行っていく。	【期末報告】 支援を希望する学生には学年を問わず個別面談を行い支援を行った。支援内容は多岐にわたり、進路・就職相談、インターンシップ、業界・企業について、面接対策、履歴書・エントリーシートの添削など、傾聴を重視し個々の悩みや相談に応じている。延べ1600件以上の個別支援を行った。	A	100%
	学生の社会貢献活動の正課の教育課程化	文学部教務課	[文学部]文学部将来計画委員会で検討する。	[文学部]文学部将来計画委員会で検討する。	【期末報告】 「文学部将来計画委員会」において検討した結果、社会貢献活動の正課の教育課程化については見送ることとなった。	C	0%
短大部:国家試験合格率の向上	R4(新)歯科衛生士国家試験の合格率向上	短大部教務課	[歯科衛生科]歯科衛生士国家試験の合格率向上に向けて、国家試験対策の強化を図る。	[歯科衛生科]1年次から国家試験対策の強化・保護者面談の早期実施・国家試験直前対策の強化。	【期末報告】 [歯科衛生科]1年次から国家試験対策の強化・保護者面談の早期実施・国家試験直前対策の強化を図った。受験生(3年生)へは、早期から出題数の多い主要3科目の対策を実施し、さらに少人数グループでの指導を行った。定期的に全国模擬試験を行い、その結果を指導に繋げた。 ※根拠資料あり	A	80%
優秀な学生を伸ばす教育的戦略	優秀な学生向けの特別プログラムの導入	教務事務部	[文学部]大学院の授業を履修できる早期履修制度を継続する。また、SAとして採用し活躍することで、学生自身の成長を促す。 [歯学部]成績上位者に対しては補講を一部免除する等の措置を検討している。 [保育科]選択科目にて、自然体験指導リーダーの資格を取得できる。また、公立保育園等の就職対策講座を設置し、公立保育園合格率アップを目指す。 [歯科衛生科]総合病院(新百合ヶ丘病院等)にて特別プログラムでの実習を実施。	[文学部]履修登録の単位数の上限を増やしている。早期履修制度の運用を継続する。SAを採用し、授業補助等を行わせる。 [歯学部]成績上位者に対しては補講を一部免除する等の措置を検討している。 [保育科]選択科目にて、自然体験指導リーダーの資格を取得する学生を増やす。また、公立保育園等の就職対策講座を設置し、さらに個別指導によって公立保育園合格率アップを目指す。 [歯科衛生科]総合病院(新百合ヶ丘病院等)にて特別プログラムでの実習を実施。	【期末報告】 [文学部]令和7年度早期履修制度の出願要件を整備したが、出願はなかった。SA制度を活用し実施した。履修登録の単位数の上限を増やしている。 [歯学部]成績上位者は補講を一部免除等の措置について検討を継続している。 [保育科]選択科目にて、自然体験指導リーダーの資格を取得した学生が55名と、卒業生の55%が取得したことになる。公立保育園等への就職については、横浜市と諏訪市に就職が内定した学生がいて希望した進路に進むことができた。 [歯科衛生科]総合病院(新百合ヶ丘病院等)にて特別プログラムでの実習を実施した。	A	80%
	SA(スチューデント・アシスタント)、TA(ティーチング・アシスタント)制度の導入と活用	文学部教務課	[文学部]SA、TAを採用し、文学部学生の学修支援を行う。	[文学部]前年度と同程度程度の人数(TA3名、SA49名)を採用予定。	【期末報告】 年間で、TA3名、SA19名を採用し、学生への学修支援にあたった。	B	60%
学位の質保証PDCAサイクルの構築	カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムの検証と見直し	教務事務部	[文学部]カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムの検証と見直しは既に実施済みである。2020年度までに対応完了。 [歯学部]週1回定例でカリキュラム委員会を開催し検討を行う。 [保育科]カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムの見直しを行い、2022度学生からカリキュラムを変更するために文科省に教員の認定申請済。 [歯科衛生科]カリキュラムの検証と見直しを継続。	[文学部]カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムの検証と見直しは教務委員会で実施する。 [歯学部]週1回定例でカリキュラム委員会を開催し検討を行う。 [保育科]カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムの見直しを行い、2022度学生からカリキュラムを変更するために文科省に教員の認定申請済。 [歯科衛生科]カリキュラムの検証と見直しを継続。	【期末報告】 [文学部]カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムの検証と見直しは既に実施済みである。2020年度までに対応完了している。 [歯学部]毎月2回定例でカリキュラム委員会を開催し検討を行っている。 [保育科]カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムの検証と見直しは既に実施済みである。次年度以降に向けての再検討の準備に着手している。 [歯科衛生科]カリキュラムの検証を行っている。	A	80%

【I. 教育】2.教育課程の改善(DPの質保証)

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
学位の質保証 PDCAサイクルの構築	シラバス記載内容の充実と整合性の検証	教務事務部	[文学部]教務委員会において、文学部のカリキュラム方針に基づくシラバスチェックを行う。 [歯学部]週1回定例でカリキュラム委員会を開催し検討を行っている。総合企画課(旧IR推進課)とも連携を図り、シラバスと歯学教育モデルコアカリキュラムとの整合性の確認や試験成績の分析を行うことを進めている。 [保育科]シラバス審査委員会にて、シラバス記載内容と整合性の検証を実施。 [歯科衛生科]シラバス審査委員会にて、シラバス記載内容と整合性の検証を実施。	[文学部]教務委員会において、文学部のカリキュラム方針に基づくシラバスチェックを行う。 [歯学部]週1回定例でカリキュラム委員会を開催し検討を行っている。総合企画課(旧IR推進課)とも連携を図り、シラバスと歯学教育モデルコアカリキュラムとの整合性の確認や試験成績の分析を行うことを進めている。 [保育科]シラバス審査委員会にて、シラバス記載内容と整合性の検証を実施。DP,CPの記入の徹底。及び予習復習の時間の確認。 [歯科衛生科]シラバス審査委員会にて、シラバス記載内容と整合性の検証を実施。	【期末報告】 [文学部]教務委員会において、文学部のカリキュラム方針に基づくシラバスチェックを行い、不都合がある場合は科目担当教員に修正を依頼した。 [歯学部]月2回定例でカリキュラム委員会を開催し検討を行っている。総合企画課とも連携を図り、シラバスと歯学教育モデルコアカリキュラムとの整合性の確認や試験成績の分析を行うことを進めている。 [保育科]シラバス審査委員会にて、シラバス記載内容と整合性の検証を実施。DP,CPの記入と予習復習の時間の確認を徹底した。 [歯科衛生科]シラバス審査委員会にて、シラバス記載内容と整合性の検証を実施。	B	80%
	ポートフォリオの導入による学修成果の可視化	教務事務部	[文学部]学習支援ツール(manaba)によるポートフォリオを活用して学修成果を可視化する。 [歯学部]学習スケジュール表を導入し、担任指導の下学生自身で学習計画の管理を行うことを検討している。 [保育科]進級時に履修カルテを記入し、各教科の学修成果の可視化を行う。 [歯科衛生科]ステップアップノートを活用し、各教科の学習成果の可視化を行う。	[文学部]学習支援ツール(manaba)によるポートフォリオを活用して学修成果を可視化する。 [歯学部]学習スケジュール表を導入し、担任指導の下学生自身で学習計画の管理を行うことを検討している。 [保育科]進級時に履修カルテを記入し、各教科の学修成果の可視化を行う。 [歯科衛生科]ステップアップノートを活用し、各教科の学習成果の可視化を行う。	【期末報告】 [文学部]学習支援ツール(manaba)によるポートフォリオの導入は既にも実施しており、活用している。 [歯学部]4年生の総合歯科医学4において受講記録表を導入し、担任指導の下学生自身で学習計画の管理、指導を行った。 [保育科]進級時に履修カルテを記入し、各教科の学修成果の可視化を行った。 [歯科衛生科]ステップアップノートを活用し、各教科の学習状況を把握した。	B	70%
	授業評価制度の見直し・具体的な活用方法	教務事務部	[文学部]学生対象の授業アンケートをmanabaで実施。教員間での授業公開を実施。 [歯学部]学生による授業評価アンケートをmanabaで実施。また、教員同士による相互評価を実施。 [保育科]前期・後期授業アンケートmanabaで実施。教員間での授業公開を実施。 [歯科衛生科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施し、検証を行う。	[文学部]学生対象の授業アンケートをmanabaで実施。教員間での授業公開を実施。 [歯学部]学生による授業評価アンケートをmanabaで実施。また、教員同士による相互評価を実施。 [保育科]前期・後期授業アンケートmanabaで実施。教員間での授業公開を実施。 [歯科衛生科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施し、検証を行う。	【期末報告】 [文学部]前期・後期の期間に授業アンケートをmanabaにより実施した。前期・後期の期間に授業公開を実施した。授業アンケートの結果を教員にフィードバックし、授業改善の検討資料に活用している。授業公開を聴講した教員は授業に関する感想・意見を提出し、また、自身の授業改善の検討資料として活用している。 [歯学部]学生による授業評価アンケートをmanabaで実施した。アンケートの結果を確認し検証を行うよう周知した。 [保育科]前期・後期の授業アンケートをmanabaで実施した。前期・後期の授業公開を実施し、教員同士による相互評価を行った。授業公開報告書は各自の授業改善のための資料として活用している。 [歯科衛生科]前期・後期の授業アンケートをmanabaで実施した。前期・後期の授業公開を実施し、教員同士による相互評価を行った。授業アンケートの結果を教員にフィードバックし、授業改善の検討資料に活用している。	A	70%
	IR機能の拡充と活動強化	総合企画課	2024年度「学生の学修・生活に関する調査」及び「卒業時アンケート」の実施。 学習成果可視化のための成績分析、入試クロス分析の実施。	・「学生の学修・生活に関する調査」項目策定、Web実施準備、4月～5月に実施、報告書作成。 ・「卒業時アンケート」項目策定、Web実施準備、3月(卒業生確定後)に実施、報告書作成。 国家試験合格状況、退学率、卒業率、就職率の整理。 入試×成績クロス分析の実施。	【期末報告】 ・2024年度「学生の学修・生活に関する調査」報告書をホームページで公開した。 ・2024年度「卒業時アンケート調査」を3月3日から14日まで実施した。調査報告書を作成し、次年度の全学教学マネジメント会議を経て公開予定。 ※根拠資料あり	B	80%
	GPA制度による進級・卒業判定、退学勧告への活用	教務事務部	[文学部]GPAを退学勧告に活用している。なお、退学勧告については、強制力があるものではなく、学生の進路変更について指導することを目的とするものである。 [歯学部]教育指導を行う目安や特待生選考の指標として活用する。 [保育科]GPA制度により、進級・卒業時にGPA1.0以下の学生への指導を実施。教務委員会にて報告する。 [歯科衛生科]GPA制度により進級・卒業判定を行い、退学勧告の措置を含めた指導を実施。	[文学部]GPAを退学勧告に活用している。なお、退学勧告については、強制力があるものではなく、学生の進路変更について指導することを目的とするものである。 [歯学部]教育指導を行う目安や特待生選考の指標として活用する。 [保育科]GPA制度により、進級・卒業時にGPA1.0以下の学生への指導を実施。教務委員会にて報告する。 [歯科衛生科]GPA制度により進級・卒業判定を行い、退学勧告の措置を含めた指導を実施。	【期末報告】 [文学部]GPA制度を退学勧告に活用しており、履修要項にも記載している。 [歯学部]GPA制度により、特待生の選考を行った。 [保育科]GPA制度により、進級・卒業時にGPA1.0以下の学生への指導を実施。対象学生を保育科専任教員全員で把握し配慮すると共に、担任が面談を行い指導を行った。結果については教務委員会で報告を行った。 [歯科衛生科]GPA制度により、各セメスター終了時にGPA1.0以下の学生への学修指導を実施。対象学生を歯科衛生科専任教員全員が把握し配慮すると共に、担任から指導を行った。結果については教務委員会で報告を行った。	A	80%

【 I . 教育】 2.教育課程の改善 (DPの質保証)

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合 (%)
学位の質保証 PDCAサイクルの構築	FDの実質化	教務事務部	[文学部]年に2回、実践・情報報告会を開催する。 [歯学部]年2回の歯学部教職員集會を開催する。また、共用試験公的化に伴い評価者養成ワークショップ、CBT問題作成講習会等、その他必要に応じて教育に関するワークショップを実施する。 [保育科]FD講演会を実施し、学生指導に反映させる。 [歯科衛生科]FD講演会を実施し、学生指導に反映させる。	[文学部]年に2回、実践・情報報告会を開催する。 [歯学部]年2回の歯学部教職員集會の開催する。また、共用試験公的化に伴い評価者養成ワークショップ、CBT問題作成講習会等、その他必要に応じて教育に関するワークショップを実施する。 [保育科]FD講演会を実施し、学生指導に反映させる。 [歯科衛生科]FD講演会を実施し、学生指導に反映させる。	【期末報告】 [文学部]年に2回のFD委員会主催の実践・情報報告会を開催し、それにより得た知見を学生指導に反映させた。題目は、第1回「包括支援課の活動と現状について」・「大学における発達障害のある学生への対応」、第2回「オーストラリア海外文化研修実践報告」 [歯学部]年2回の教職員集會とFD講演会「プロフェッショナルリズム」を題目として外部講師による講演を実施した。また共用試験公的化に伴う評価者養成ワークショップの参加、CBT問題作成講習会を開催し学生教育に反映させた。 [保育科]年1回のFD講演会(テーマは「生成AIの概要と授業活用方法」)を実施し、学生教育に反映させた。 [歯科衛生科]年1回のFD講演会(テーマは「生成AIの概要と授業活用方法」)を実施し、学生教育に反映させた。	A	80%
	就職企業・卒業生追跡アンケートの実施(地域や職種のもの)	キャリア支援課	文:卒業生へのアンケートを実施 短:就職先・卒業生へのアンケート実施	QRコードから読込出来るようにしたGoogleフォームでの回答と紙面での回答の選択をできるようにする	【期末報告】 短期大学部では就職先アンケート・卒業生アンケートを実施。文学部は卒業生アンケートのみ実施。 文学部卒業生の回収率が6.7%、保育科卒業生17.2%、保育科就職先62.5%、歯科衛生科卒業生11.9%、歯科衛生科就職先49.4%。文学部の卒業生、短大部の卒業生での回収率が下がる結果となった。回答方法はGoogleフォームと紙面の2通りから変更しておらず、今後も回答しやすい方法等を模索していきたい。 ※根拠資料あり	B	60%

【 I . 教育】 3.学生支援の充実

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合 (%)
中途退学理由の 説明と対策の実施(集中的な退学者対策)	個人面談・オフィサーの活用	学生支援課	学生にオフィサーを中心とした個人面談の機会を与え、学修面だけでなく、学生生活全般における悩み事を聞き取り、問題解決の糸口になるようにする。 [文学部]成績不良者(GPA1.0未満)との個人面談を実施する。年度始めにオフィサーの一覧を学生に配布し活用するように周知している。 [歯学部]担任が定期的に学生と面談を実施し、年に数回、学年会議において学年主任・担任間で情報を共有する。 [短大部]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談。年度始めにオフィサーの一覧を学生に配布。	年度初めに、学生にオフィサーの時間を示す。(教務課オリエンテーションにて) [文学部]成績不良者(GPA1.0未満)との個人面談を実施する。年度始めにオフィサーの一覧を学生に配布し活用するように周知する。 [歯学部]担任が定期的に学生と面談を実施し、学年主任と情報を共有している。 [短大部]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。	【期末報告】 [文学部]成績不良者(GPA1.0以下)との面談を実施。年度初め、学生にオフィサーの一覧を配布した。成績不良者との面談を担当が対面で学修指導を行った。 [歯学部]担任が定期的に学生と面談を実施し、年に数回学年会議において学年主任・担任間で情報共有を行った。 また、実習前後の実習担当教員による個人面談を実施した。 [歯科衛生科]担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談を実施した。 [短大部]担任制を取り、欠席2回で担任に報告し、また学生支援課と情報を共有した。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施した。実習前後の実習担当教員による個人面談を実施した。年度始めにオフィサーの一覧を学生に配布した。	A	80%
	入学試験方法と中途退学者との相関関係(歯学部は国試合格率も)分析と対策	学生支援課	[学生支援課]総合企画課の分析結果を基に、対策を検討する。 [総合企画課]2019年度から実施している施策の評価は、2024年度に行う。その他、モニタリングを行う。 ・入試区分ごとの2023年度卒業率・退学率算出。 ・入試区分ごとの2023年度歯科医師国家試験合格者の分析。 ・文学部指定校推薦者、短大保育科の出身高校毎の在籍状況分析。 なお、歯学部については学生の成績分析等を検討。	[学生支援課]総合企画課の分析結果を全学教学マネジメント委員会で共有し、退学事由によっては学生委員会に報告し、退学者対策について検討する。 [総合企画課]2024年3月～7月に2023年度卒業生、退学者、国家試験合格者と入試区分のクロス分析。 文学部指定校推薦者、短大保育科の出身高校毎の在籍状況分析。	【期末報告】 [学生支援課]分析結果の検討まで至らなかった。 [総合企画課]2023年度卒業生、退学者、歯科医師国家試験合格者と入試区分のクロス分析は、2024年9月の全学教学マネジメント会議にて共有した。 ※根拠資料あり	B	70%

【I. 教育】3.学生支援の充実

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
中途退学理由の解明と対策の実施(集中的な退学者対策)	きめ細かい中退ケア の方策の策定	学生支援課	[学生支援課]学生の情報をより多く集めるようにする。 [文学部]GPA1.0未満の学生の修学指導を行う。学籍異動の際には「学籍異動調査票」に記録し学科内で情報共有する。 [歯学部]厳格な出席管理のもと、授業を欠席した学生に対しては当該授業の録画を見せ、修学に遅れをきたさないようにする。また、定期的に担任と面談を実施する。 [保育科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談。 [歯科衛生科]担任制を取り、欠席2回で担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。	[学生支援課]相談に来た学生の問題を解決するため、関係部署、当該学科の教員と連携して対応する。 [文学部]GPA1.0未満の学生の修学指導を行う。学籍異動の際には「学籍異動調査票」に記録し学科内で情報共有する。 [歯学部]システムを用いた出欠管理。担任による定期的な面談。 [保育科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談。 [歯科衛生科]担任制を取り、欠席2回で担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。	【期末報告】 [文学部]成績不良者(GPA1.0以下)との面談を実施。「学籍異動調査票」に記録し学科内で情報共有した。 [歯学部]授業を欠席した学生に対してはWeb欠席届を提出させ、当該授業の録画を視聴した後、口頭試問を受けることを義務付け、授業の補完とした。また定期的に担任との面談を実施した。 [保育科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告した。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防いだ。担任による個人面談を実施した。実習前後の実習担当教員による個人面談を実施した。 [歯科衛生科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防いだ。	B	70%
	これまででなされてきた 中退対策の成果検証と 改善方策	学生支援課	・T-PECの周知及び活用(文学部・短期大学部) ・各学部毎、教員と学生の面談を強化	T-PECの認知度を上げるため、ポスター掲示やオリエンテーション等で、学生への周知を図ると共に、定期的にポータル・掲示等でも周知をしていく。	【期末報告】 T-PECの認知度を上げるため、年度初めオリエンテーションでチラシを配付するだけでなく、時期に応じてチラシの掲示を行い、学生への周知をした。窓口での学生面談については、教員、他の関係部署とも連携し、対応できた。 ※根拠資料あり	B	70%
学生一人ひとりが安心できる精神的拠り所の整備(教職連携支援体制の構築)	学生支援に関する包括的なポリシーの策定と 専門スタッフの配置・育成	学生支援課	[学生支援課]既存の学生支援に関する方針(学生支援ポリシー)を基に、学生に的確な対応ができるようにする。 [保育科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談。 [歯科衛生科]担任が生活状況や学習状況に応じて学生と面談を実施、当科の教員で共有し、必要があれば他の部署と連携し対応する。 [キャリア支援課]キャリアコンサルタント(国家資格)を有したスタッフを配置し個人面談を実施。	[学生支援課]研修会等、積極的に参加し、情報を収集する。 [保育科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談。 [歯科衛生科]担任が生活状況や学習状況に応じて学生と面談を実施、当科の教員で共有し、必要があれば他の部署と連携し対応する。 [キャリア支援課]キャリアコンサルタント(国家資格)を有したスタッフを配置し個人面談を実施。	【期末報告】 [文学部]成績不良者(GPA1.0以下)との面談を実施した。 [歯学部]担任が定期的に学生と面談を実施し、学年主任と情報を共有した。 [保育科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。担任による個人面談の実施。実習前後の実習担当教員による個人面談。 [歯科衛生科]担任制を取り、欠席2回で担任に報告。担任が学生と連絡を取り長期欠席を防いだ。 [学生支援課]各種研修会に積極的に参加し、他大学の事例等を参考にしながら、研修内容を課内で共有した。 [キャリア支援課]キャリアコンサルタント(国家資格)を有したスタッフを配置し個人面談を実施。必要に応じて課内で情報を共有。対応困難な学生に対しては専門の資格を有するスタッフがその知見を活かしつつ就職支援を行った。	B	70%
	R5(新)障がい学生支援の強化	包括支援課	令和6年4月より改正障害者差別解消法が施行され、障がい学生への合理的配慮の提供が義務化されるにあたっては、更なる支援体制の強化を図る。そのため、教職員の意識啓発のための講演会開催や、支援機器の購入などを計画している。	障がい学生支援のため、以下の事業について順次実施していく。 ・障がい学生支援機器の購入及び貸出手続きの制度化 ・教職員対象の研修会開催 ・障がい学生支援ガイドの作成 ・学内のバリアフリーマップ作成 ・学生サポーターの育成、活用	【期末報告】 外部講師を招き、障がい学生支援に係る教職員対象の研修会をUD研修会の一部として開催した。また、課外活動公認団体「情報バリアフリー推進会」の協力のもと、学内のバリアフリーマップを完成させた。「鶴見大学障がい学生支援機器貸出規程」並びに「鶴見大学学生サポーター規程」を制定し、次年度より運用の予定である。令和6年度に障がい学生支援推進部会での審議を経て合理的配慮の提供を実施した学生は10名となっており、状況の確認や修学上の困難を把握するため、コーディネーターを中心に定期的な学生面談を実施している。また、相談の申し出があり、合理的配慮の提供は望まないものの、継続的に面談のみを実施している学生が複数人いた。	A	90%
	R5(新)国際交流の活性化	包括支援課	国際交流事業がコロナ前と同程度の状況となることを想定し、各学部の国際交流事業への協力を図る。また、新たな国際交流事業についても、引き続き検討を行う。	国際交流協定校からの学生を受け入れる際には、国際交流センターにおいて、ゲストハウスの手配や交流会の開催等の協力を行う。また、海外留学希望者に対しては、OSSMAとの契約による海外危機管理サービス利用についても周知を行う。	【期末報告】 令和6年度の年間を通しての協定校からの受け入れ学生は、文学部2名(イギリス)、歯学部が6名(韓国)であり、期間中ゲストハウスに滞在した。また、本学からの派遣については、授業で海外研修を行った学生が文学部・歯学部合わせて10名(オーストラリア)、文学部の協定校への長期派遣留学生が1名(カナダ)であった。なお、派遣、受入とも危機管理サービスを利用し、適切な安全管理を行った。文学部がオーストラリアのRMIT大学と、歯学部がアメリカのオレゴンヘルス&サイエンス大学との学術交流協定を締結した。また、歯学部では、アメリカのオハイオ州立大学との学術交流協定について、7月17日付で更新を行った。外国人留学生在がゲストハウスを使用することができるよう「鶴見大学ゲストハウス使用規則」を改正し、併せて「鶴見大学ゲストハウスの外国人留学生の使用に関する細則」を制定した。また、本学に入学する留学生在が学生生活を送る上で必要となる基本的な事項を取りまとめた『外国人留学生的のためのガイドブック』を作成した。	A	70%

【I. 教育】3.学生支援の充実

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
意欲ある学生の成長を促す奨学金制度の整備	努力を続ける学生に対する奨学金制度の拡充	学生支援課	總持寺奨学生、同窓会奨学生等で、成績優秀者や課外活動で活躍した者等、多様な学生に対する奨学金制度の継続	規程や細則に則り、学生への周知及び公正な奨学生選考を行う。奨学金制度により、学業優秀な者、課外活動で活躍した者等、対象が異なるため、学生への周知を徹底する。	【期末報告】 3月に当該年度の年度GPAを基に、歯学部特待生の選考を実施した。 新2年生 18名、新3年生 10名、新4年生 10名、新5年生10名、新6年生 10名 合計 58名	A	90%
	学内ワークスタディの拡充等	キャリア支援課	大学業務の補助を通して学生の成長を促す。	大学業務の補助を通して学生の成長を促す。	【期末報告】 大学業務の補助を通して、学生の成長と経済的支援を行った。	B	90%
学生に関する各種記録のデータベース化による情報共有・支援円滑化	学生面談記録のデータベース化(教員・学生支援課)	学生支援課	各担当部署で学生と面談した際は、必ず記録を取り、必要に応じて、関係部署間及び当該学科の主任・科長、学生委員の教員と情報共有を図る。 [歯科衛生科]学生や保護者等との面談した際は記録を取り、都度、科内・関係部署と情報共有を行う。 [保育科]学生や保護者等との面談の度に記録を取り、都度、教員と情報共有している。 [歯学科]定期的に担当が面談を行い、ポータルサイトの面談記録に入力をする。	各担当部署で学生と面談した際は、必ず記録を取り、必要に応じて、関係部署間及び当該学科の主任・科長、学生委員の教員と情報共有を行う。 [歯科衛生科]学生や保護者等との面談した際は記録を取り、都度、科内・関係部署と情報共有を行う。 [保育科]学生や保護者等との面談の度に記録を取り、都度、教員と情報共有している。科会にて逐一報告する。 [歯学科]定期的に担当が面談を行い、ポータルサイトの面談記録に入力をする。	【期末報告】 [学生支援課]学生や保護者等との面談の度に記録を取り、都度、当該学科教員及び当該学部の教務課と情報共有を行った。また、学生の状況によっては包括支援課・保健センターとも連携をして、対応した。データベース化はできていないが、求められれば面談記録等は示せるようにしている。 [文学部]学生や保護者等との面談の度に記録を取り、都度、関係部署と情報共有を行った。 [歯学部]担当が定期的に学生と面談を行い、CampusSquareへの入力をしている。また、学年主任と担任の学年会議を毎月に行い、情報共有をはかっている。また、学年会議の報告を学生委員会で行っている。 [保育科]学生や保護者等との面談の度に記録を取り、都度、教員と情報共有を行った。個人情報であるため、記録の保護には気を付けている。電子データによるデータベース化はできていないが、紙媒体で面談記録は保管しているため、いつでも閲覧可能である。 [歯科衛生科]学生や保護者等との面談した際は記録を取り、都度、科内・関係部署と情報共有を行った。	B	70%
	進路指導記録のデータベース化(教員・キャリア支援課)	キャリア支援課	[保育科]キャリア支援課で把握した就職状況を教員も把握し、実習巡回で卒業生の様子や採用状況を把握する。高校訪問に活かす。専攻科への内部進学指導を行う。 [キャリア支援課]個々の学生の面談記録等をシステムに入力し共有。	[保育科]キャリア支援課で把握した就職状況を教員も把握し、実習巡回で卒業生の様子や採用状況を把握する。高校訪問に活かす。専攻科への内部進学指導について説明会、個別相談を実施する。 [キャリア支援課]個々の学生の面談記録等をシステムに入力し共有。	【期末報告】 [保育科]キャリア支援課で把握した就職状況を教員も把握し、実習巡回で卒業生の様子や採用状況を把握し、高校訪問に活かした。専攻科への内部進学指導について説明会、個別相談を実施した。 [キャリア支援課]システム上に記録を残し、共有すべき問題は課内で共有。教員へは必要に応じ個別に共有・連絡を行った。	A	100%
	実習巡回記録のデータベース化(短大教員)	短大部教務課	[保育科]実習巡回記録は紙媒体で保管している。実習先一覧等は教務課でデータ化管理しており、実習巡回での問題点等は教務課の実習先一覧データに集約している。 [歯科衛生科]実習巡回記録をデータベース化し、情報を共有する。	[保育科]実習巡回記録は紙媒体で保管している。実習先一覧等は教務課でデータ化管理しており、実習巡回での問題点等は教務課の実習先一覧データに集約している。 [歯科衛生科]実習巡回記録をデータベース化し、情報を共有する。	【期末報告】 [保育科]実習巡回記録の保管は紙媒体で統一している。実習先一覧等は教務課でデータ化管理しており、実習巡回での問題点等は教務課の実習先一覧データに集約し、次へ活かす資料として蓄積している。 [歯科衛生科]実習巡回記録をデータベース化し、情報を共有した。	B	60%
課外活動の振興を目指した環境整備・予算配分	課外活動の発表・表彰制度の導入	学生支援課	・文化系団体は主に大学祭において各々の活動についての発表を行う。体育系団体については、常に活動報告書を提出してもらい、いずれも、大学報で、活動内容や試合結果・成績等を掲載する。 ・文学部・短期大学部同窓会、歯学部同窓会奨学生制度を周知する。	・長期休暇期間を除き、原則月に1回、代表者を集めた団体会議を開き、ルールブックに則った課外活動の運営を進める。 ・同窓会奨学生の選考を円滑に行うため、活動報告書の提出を徹底する。	【期末報告】 ・文化系団体は大学祭において各々の活動についての発表を行った。併せて大学報で年に2回、活動内容を掲載した。 ・体育系団体については、常に活動報告書を提出してもらい、大学報で年に2回、試合結果や成績等を掲載した。 ・文学部・短期大学部同窓会(後期)、課外活動で顕著な成績を残した学生や活躍した学生に対して、奨学金を給付した。 文学部はボランティアや大学祭運営で活躍した2名、硬式野球部で活躍した1名。 歯学部同窓会奨学生については、課外活動で活躍した2名の学生に対して奨学金を給付した。	A	90%

【Ⅰ. 教育】 3.学生支援の充実

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
愛校心・帰属意識を高める工夫	大学行事(イベント)や広報への学生の積極的な参画	学生支援課	大学祭への参加団体、参加者を前年度より10%増加させる。	課外活動に参加していない学生も、気軽に大学祭に参加できるようなイベントを企画する。有志団体としての参加も可能であることを周知し、学生の参加率を高める。	【期末報告】 [学生支援課]昨年に引き続き、七夕イベントを開催した。笹を設置し、用意した短冊に学生・教職員の各々の願い事を書いてもらい、総持学園100周年の缶バッジを配布した。終了後は短冊を総持寺に持参し、お焚き上げをしていただいた。紫雲祭は第60回という周年であったため、トークショーを2日間開催した。また、今年度は参道での模擬店も出店できた。また、初めての試みとして、夢ひろばin総持寺とコラボし、豊岡商店街へのフラッグ設置、参道へのカウンタダウンボード付きの大看板アーチを設置した。 [入試課]9月～12月にオープンキャンパスminiを開催し、学生スタッフを中心とした運営で学生募集活動に従事した。また、3月末には春のオープンキャンパス開催時に学生スタッフを動員した。いずれも受験生や保護者から大変好評であった。	A	80%

【Ⅱ. 研究】 1.学部の枠を超えた学際的研究環境の構築

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
研究意欲の喚起・推進	研究・教育業績と連動した研究費の配分の見直し(助教以上科研費申請なしで研究費減額)	教育研究支援課	専任教員以上の科研費等外部資金申請状況の把握	過去5年間に遡って科研費等外部資金申請状況をデータ化する。大学、短大ごと、各学部ごと、随時データ化を行う。	【期末報告】 学内での個人研究費、講座研究費が数年前から大幅に減額されているため、科研費の申請の有無によってさらに学内研究費の配分を減額することは難しいと思われる。	B	80%
	教員の年次研究計画の作成と審査の実質化	教育研究支援課	2024年度教員の研究計画を提出していただく。2023年度教員の研究計画報告をしていただく。	各教員、講座へ提出依頼を実施。期日を設けて提出をしていただく。	【期末報告】 全学部・全学科の教員より提出され、学長に報告済み。	S	100%
	URAの配置など、科研費申請の推進指導、サポート体制の強化	教育研究支援課	科研費申請の推進指導、サポート体制強化。	・科研費の各種目ごとの公募通知を実施する。 ・科研費学内説明会を開催する。	【期末報告】 科研費の各費目について公募通知を実施した。(2024.7.17) 外部資金獲得支援のための動画講座を公開した。(2024.7.26、7.30) 科研費の申請率、採択率共に増加した。 ※根拠資料あり	A	90%
	附置研究所の活動方針明確化、サポート体制強化	教育研究支援課	附置研究所の活動方針明確化、サポート体制強化	各附置研究所ごとに詳細な事業計画を立て、実行していく。	【期末報告】 附置研究所と連携し、研究に支障がないように進めた。特に仏教文化研究所に関しては、担当事務職員のサポートに時間を要した。	A	80%
研究業績の学内外共有とマッチング機能による共同研究推進	教員の研究業績のデータベース化(機関リポジトリの導入)	教育研究支援課	教員の研究業績のデータベース化。	・研究業績プロ(システム)についての活用継続と推進。 ・研究業績プロ(システム)に入力を行ってもらおうよう各研究者に通知を行う。	【期末報告】 研究業績プロの新オプション「researchmap自動取込オプション」を導入し、次年度よりresearchmapから研究業績プロへの入力データの自動連携が可能となるよう整備した。 機関リポジトリへの登録を研究者に促すため1年かけて準備してきたが、実現には至ることができなかった。	B	30%
	企業や海外大学との共同研究	教育研究支援課	企業との共同研究の推進	企業との共同研究の推進	【期末報告】 令和6年度の企業との共同研究件数については、前年度より増加し、研究費の増収にもなった。 海外の大学との共同研究については、安全保障貿易にも係る可能性もあり、現状は難しい。 ※根拠資料あり	A	80%

【Ⅲ. 医療】 1.社会変化に伴う医療ニーズの多様化・高度化を見据えた改革によって、地域の健康寿命の延伸に貢献する

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
患者動線に配慮した歯科診療機能の配置等による利便性向上と診療効率化	患者動線に配慮した歯科診療機能の配置等による利便性向上	病院事務部	診療科フロア制の導入に伴う設備の構築、院内環境改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療科の統合</li> <li>多目的トイレの設置</li> <li>バリアフリーの強化</li> </ul>	<p>【期末報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンサル業者と業務委託を2024年8月に締結。</li> <li>コンサル業者のアドバイスのもと、次年度より初診科と総合歯科2の診療科を統合、助教以上の歯科医師には臨床研修医の指導医を兼任し両科を柔軟に行き来できるよう変更することとなった。</li> <li>多目的トイレの設置とバリアフリーの強化については、院内リノベーションの一環として前向きに取り組む方針である。</li> </ul>	B	70%
	医療スタッフ動線や設備数・配置等の最適化による診療効率化	病院事務部	診療科のフロア制によるスタッフ間の信頼関係の構築、および患者サービスの向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科衛生士のフロア制の導入</li> <li>診療科の統合</li> <li>ユニットの削減</li> </ul>	<p>【期末報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度実施したフロア制は次年度も引き続き実行。障害者歯科は休診日が週2日あるため、所属している歯科衛生士は休診日のみ他科で業務を行うこととした。</li> <li>コンサル業者と業務委託を2024年8月に締結。</li> <li>コンサル業者のアドバイスのもと、次年度より初診科と総合歯科2の診療科を統合、助教以上の歯科医師には臨床研修医の指導医を兼任し両科を柔軟に行き来できるよう変更することとなった。</li> <li>診療科の統合に伴い移設先に移設した際に老朽化したユニットを10台廃棄した。(現在のユニット数は245台→223台)</li> </ul>	A	80%
病院内に地域連携室を設置し、地元の医療機関や歯科医師会と連携した地域医療ネットワークを構築	横浜市の中核病院である済生会横浜市東部病院や歯科医師会と連携し、周術期の口腔ケア機能を拡充	病院事務部	地域医療連携室において歯科医師会・医師会等の関連医療機関への広報活動を実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの活用。</li> <li>済生会横浜市東部病院の周術期患者の受け入れ枠を増やす。</li> <li>広報活動による、地域住民への周知。</li> </ul>	<p>【期末報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受診者数は昨年度より1.25倍増し、収入も増加した。今後は周術期を行う規模を拡大し更なる増患を目指す。</li> <li>広報活動は現状維持とし、患者の受け入れ態勢が整い次第、活動を強化していく。</li> </ul> <p>※根拠資料あり</p>	A	80%
	障がいを抱える患者様を対象とした、日帰りの全身麻酔下歯科治療の実施体制を強化	病院事務部	横浜市と連携し患者の受け入れを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科麻酔科での予約患者数を増やす。(1日/週、5件/月)</li> </ul>	<p>【期末報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者数は昨年度より20名増加。月平均患者数も6名であり、年間の目標患者数を達成できた。しかし地域社会からの要請には十分に応えているとは言い難いので、今後、受け入れ体制の充実を図りたい。</li> </ul> <p>※根拠資料あり</p>	S	100%
	超高齢社会における歯科総合病院の特徴を活かした質の高い訪問歯科診療体制を構築	病院事務部	地域医療連携室を中心とし、高齢者歯科・口腔内科との連携による受入れ体制の確立。	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問診療マニュアルの作成。</li> <li>定例会議を月1回開催し、情報共有を行う。</li> <li>地域への広報活動。</li> </ul>	<p>【期末報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔内科を主導とした訪問診療に移行。</li> <li>マニュアル、パンフレットは訪問診療の体制が整備されていないため、一旦作成を中断。</li> <li>医事連絡会議において状況報告を行った。</li> <li>高齢者歯科が担当していた訪問先は引継ぎががでる歯科医師がいなかったため、訪問中止となり訪問先が昨年度より減少した。結果的に地域社会への貢献度が大きく低下するとともに、収益性の低下にも繋がっているため、今後は受け入れ体制を整備し増患を目指す。</li> </ul>	C	50%

【Ⅳ. 社会貢献】 1.地域(住民・行政)と總持寺、本学の連携

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
街づくり・地域活性化のためのコミュニティ形成と運営	地域(住民・行政)並びに總持寺と連携した事業やイベントの実施	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>鶴見観光ネットワーク協力</li> <li>鶴見大学杯 少年野球大会開催</li> <li>禅と海 里づくり交流促進プロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度から再開した鶴見観光ネットワークに協力する。</li> <li>鶴見大学杯少年野球大会を鶴見区少年野球連盟と共催、横浜市鶴見区及び神奈川新聞社後援にて開催予定。</li> <li>禅と海 里づくり交流促進プロジェクトでは、總持寺・總持寺祖院・輪島市・鶴見区・本学が連携し、イベントを開催予定</li> </ul>	<p>【期末報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輪島物産展は令和6年度は紫雲祭内ブースで開催。</li> <li>鶴見大学杯少年野球大会開会式を9月28日に行い大会開催。</li> <li>禅と海 里づくり交流促進プロジェクトの開催は見送られた。</li> </ul>	A	90%

【IV. 社会貢献】 2.地域ニーズと学内資源(文学・健康医療・子育て支援・施設)のマッチング強化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
文学部・歯学部・短大部の知を活かした生涯学習の再構築	地域ニーズのリサーチと本学の特徴を活かした生涯学習の在り方を検討	総務課	・令和6年度つみ連携カレッジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科への協力依頼</li> <li>・講座内容、実施方法、広報内容を企画</li> <li>・5月地域連携推進委員会にて実施案提出</li> <li>・ポスター等作成・発送・周知等広報活動</li> <li>・10～2月期間中に講座実施</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度つみ連携カレッジ「憧れの洋書を楽しむための極意4選」を予定どおり文学部英語英米文学科教員と外部講師のオムニバス形式で対面開催。受講者数は93名(11月16日時点)。</li> <li>※根拠資料あり</li> </ul>	S	100%
歯学部及び附属病院を活かした地域社会の健康福祉の増進	歯科医師会や地元歯科医師と連携した地域医療ネットワーク構築	病院事務部	歯科医師会、地元歯科医院との連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の実施</li> <li>・広報誌の発行</li> <li>・各種セミナーの実施</li> <li>・鶴見区地域医療連携ネットワーク「サルビアねっと」に加入し、地域包括ケアシステムの構築を目指す。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴見区地域医療連携ネットワーク「サルビアねっと」のシステム構築完了。病院の他、地域の関係施設間との情報共有を行うことができるようになった。</li> <li>・地域医療連携室の業務を再検討することとなったため、協議会、広報誌の発行、セミナーの開催については保留となった。</li> </ul>	C	80%
	訪問歯科診療等、社会ニーズを踏まえた地域医療の提供	病院事務部	歯科医師会、地元歯科医院との連携による受け入れ体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の発行</li> <li>・訪問診療マニュアルの作成</li> <li>・患者、地域住民へ向けてのセミナーの開催</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内科を主導とした訪問診療に移行。</li> <li>・マニュアル、パンフレットは訪問診療の体制が整備されていないため、一旦作成を中断。</li> <li>・患者、地域住民へ向けてのセミナーの開催は実施せず。</li> <li>・以前開催していた「インプラント治療説明会」を次年度より再開する予定。</li> </ul>	C	50%

【V. 大学運営】 1.組織運営の高度化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
学園(大学)のあるべき姿・将来像の明確化	学園(大学)の将来像を設計(マスタープラン)	総合企画課	中長期計画である「総持学園Vision2024」改訂版(2023-)と、中長期財政計画のひとつである「事業活動収支シミュレーション」について共有を図り、中期的に計画を遂行していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総持学園Vision2024」改訂版(2023-)に沿って、年度計画を実行する。</li> <li>・人件費抑制計画を進めていく。</li> <li>・学生募集の強化を図る。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の全体的な計画の見直しを行った。</li> <li>・今後を見据えて職員の求人募集を行い、次年度6名の採用を決めた。</li> <li>・令和7年度入学定員充足率は、大学・短大共に7割超であった。但し、学科別に見ると歯学科と保育科は6割に満たない状況となった。</li> </ul>	B	60%
	将来像を実現するための中長期計画(100周年含)の策定	総合企画課	中長期計画の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『総持学園 Vision2024』改訂版(2023~)」の見直しを行い、この先の数年間に向けての中長期計画を策定する。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな中長期計画「総持学園 Vision2031」のもと、第三期主要計画一覧を策定し、HPIに公表した。</li> </ul>	B	80%
効率的な組織づくりによるガバナンスの質向上	外部評価委員会などの多様なステークホルダーから意見を聴取する仕組みの構築	総合企画課	外部評価活動を推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5(2023)年度～令和6(2024)年度の2年任期で就任頂いている外部委員2名に評価を依頼し、報告書をまとめる。</li> <li>・次年度(令和7年度)の外部委員について検討を進める。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部委員から提出いただいた資料を元に「外部評価報告書」を取りまとめた。7月の全学自己点検評価委員会で報告し、大学HPで公表した。</li> <li>・次年度(令和7年度)以降の外部委員について、委員委嘱のため手続きを進めた。</li> </ul>	A	80%
	定期的なUD開催による将来像と中長期計画の全学的な議論・共有・浸透	総合企画課	年度内にUD研修会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当部署と連絡を取り、テーマの絞り込みを行う。</li> <li>・年度初めに開催時期の検討を行い、計画的な開催を目指す。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招き、2025年2月27日17時からUD研修会を開催した。</li> <li>※根拠資料あり</li> </ul>	A	90%
学内情報共有の円滑化	大学運営協議会の設置・運用などによる他学部・他部署の教職員間の情報交換	総合企画課	大学運営協議会の適切な運営に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の定期開催と効率的な会議進行</li> <li>・社会情勢に鑑みて対面開催を検討する。</li> <li>・教職員間の情報共有について、新たな方法を模索する。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月を除き、月1回定期開催した。</li> <li>・対面開催に比べ、Web会議は日程調整を行いやすく、出席者も参加が容易であるため、現状の開催方法のままとなっている。</li> <li>・教職員間の情報共有については、今後検討を進めていく。</li> </ul>	B	60%

【V. 大学運営】 1.組織運営の高度化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
学内情報共有の円滑化	業務支援・教育支援のためのインフラ(各種システム)の運用強化・利便性向上	情報システム課	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線アクセスポイントの増設</li> <li>AXIOLE(学認)の更改</li> <li>学務システム CampusSquareのカスタマイズ</li> <li>ホームページのサーバー、OS、CMSの更改</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線アクセスポイントを7月末までに部室棟に設置する。</li> <li>AXIOLE(学認)を7月末までに更改する。</li> <li>学務システム CampusSquareのカスタマイズを5月初旬より関係部署にヒアリングし、カスタマイズ内容を確認・確定し、年度末までに実装する。</li> <li>ホームページのサーバー、OS、CMSを6月末までに更改する。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>無線アクセスポイントを部室棟に設置した。(8月29日済)</li> <li>AXIOLE(学認)を更改した。(8月15日済)</li> <li>学務システム CampusSquareで、部活動名簿(7月31日済)、入学手続きオンライン化対応(9月13日済)のカスタマイズをそれぞれ実装した。</li> <li>ホームページのサーバー、OS、CMSを更改した。(6月18日済)</li> <li>学務システム CampusSquareで、大学入学共通テストの変更点にともなう改修(12月2日済)を実装した。</li> </ul>	A	80%
広報活動・情報発信の戦略的な取り組み	広報部の設置による学内外の情報発信一元化	総務課	広報事業の全学的一元化に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報事業の所管性の明確化に向けた取り組み</li> <li>各部署間での広報活動の連携</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> 全学的な広報一元化に向けては計画・実施には至っていないが、各部署間等で広報活動のための情報共有は行っている。	B	100%
	HPで学内外に向けた積極的教員紹介	教育研究支援課	研究者による研究業績プロ(システム)への入力	研究業績プロ(システム)に入力を行ってもらうよう各研究者に通知、周知を行う。	<b>【期末報告】</b> 新たに入職した研究者に向けてメール等で通知を行った。研究業績プロ未入力の専任教員へも継続して定期的に入力を促していく。今後は、業績プロにおける教員情報公表からresearchmap主体の公表へと変更していきたい。 ※根拠資料あり	B	70%
	動画で教育研究の様子を公開(大学の魅力の見える化)	教育研究支援課	研究面からの情報の公開を実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学ホームページ上に研究業績プロを通して教員情報を公開する。</li> <li>大学ホームページ上に科研費採択者一覧を公開し、随時更新する。</li> <li>大学ホームページ上に受託・共同研究等の研究情報を公開する。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>科研費の採択者一覧を大学ホームページ上に公開した。内定があり次第、随時更新を行った。</li> <li>受託・共同研究等の研究情報を大学ホームページ上に公開している。</li> <li>教育研究の動画公開については、当課としては着手していない。入試課で作成の各学部の紹介動画、授業の様子動画をそれに充てることで良いのではないかと判断した。</li> </ul>	B	70%
	各HP(大学・学部・病院)の一体的なリニューアルと逐次更新による情報発信力強化	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画及びSNSを活用した情報発信</li> <li>教職員のメディア等の出演情報に関する発信</li> <li>教職員の社会貢献情報に関する発信</li> <li>受験生応援サイトでの情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の確保等を目的とした動画の制作、及び複数のSNSを導入して発信する。</li> <li>学部、附属病院等に所属する教職員の活躍を取り上げたメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等)の情報の収集、及び申告システムを整備して、一元的に発信する。</li> <li>教職員における政府、地方自治体、公益法人等における参加状況(委員、役員等)及び協定等の状況を把握し、一元的に発信する。</li> <li>受験生応援サイトで入試制度及び本学の魅力を発信する</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>受験生応援サイトについて、オープンキャンパスや入試情報等、受験生に対して随時発信した。</li> <li>公式X(旧Twitter)、公式Instagramについてそれぞれ情報発信をした。</li> <li>教職員のメディア情報については、随時ホームページ等に掲載した。</li> <li>教職員における政府、地方自治体、公益法人等における参加状況については、随時ホームページ等に掲載した。</li> </ul>	A	70%
	SNSを活用したリアルタイム情報発信強化	総務課	SNSを活用したリアルタイム情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務課発信の情報(例:メディア出演情報、マスコットグッズ新作、広報誌発行、ロケ撮影・外部取材…など)の発信頻度を増やしたり、定期化させる。</li> <li>CampusNOWの取材様子などをSNSで告知する。</li> <li>LINE、インスタグラムを活用し募集についての情報を発信する</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャットボットの一部運用を開始。また、LINEアカウントは全面的に運用した。</li> <li>X(旧Twitter)、Instagramについてそれぞれ最新情報を発信した。</li> <li>CampusNOWの取材に関するSNSでの発信については未だ検討中だが、発行のお知らせをXとInstagramの両方で発信を開始。</li> </ul>	C	30%
マスコットキャラクターの活用促進	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内外のイベント等への参加による知名度向上。</li> <li>マスコットキャラクターをデザインに取り入れたオリジナルグッズをより多くの人に手に取って利用してもらう。</li> <li>委託販売の継続(紀伊国屋書店)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナルグッズの新規作成。</li> <li>グッズ周知のために学内外へのSNS等を利用した情報発信。</li> <li>学生からオリジナルグッズのアイデアを募集する。</li> <li>100周年記念事業に向けてグッズの企画、作成。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の影響により、感染対策の掲示物や遠隔授業で使用される教材等の作成が増え、その掲示物等にイラスト使用頻度が増加した。</li> <li>オープンキャンパスや高校訪問の他、鶴見連携カレッジ受講者へグッズを配付した。また、学内売店での販売を継続した。</li> <li>大学案内パンフレットの撮影、学校紹介動画の出演、紫雲祭、卒業式の参加、その他外部でのイベントへ参加した。(つるみ夢ひろばへ参加)</li> <li>来年度オープンキャンパスにて配布するオリジナルグッズを2種類企画作成した。また、新入生配付用トートバッグのデザインをリニューアルした。</li> </ul>	B	60%	

【V. 大学運営】 1.組織運営の高度化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
教員組織の質向上	教員の評価・処遇の公平性確保	人事課	学部間での処遇実態格差について明確化する	処遇格差の実態とその要因を把握し、格差解消のための是正案作成につなげる。大学設置基準改正に伴う他大学の動きも参考にしながら、関連規程の見直しを行う。	【期末報告】 「鶴見大学短期大学部教員の人事及び勤務に関する規則」の改正案について、短期大学部長への説明を行い、短期大学部の委員会、教授会にて承認をとり同規程については無事に改定に至った。	A	90%
	職位に相応しい採用要件(資格・業績等)の明文化	人事課	設置基準の法令に沿って、必要な学内規程の整備を進める	規程の不備については確認されていないが、大学設置基準に即した変更について進めていく。	【期末報告】 基幹教員への対応として、「鶴見大学短期大学部教員の人事及び勤務に関する規則」について改定を完了した。	A	90%
	文学部教員組織のST比の改善(学科間の不均衡是正)	人事課	現状の問題点を継続的に探っていく	ST比の改善につながる基礎的要素を探り、根拠資料の形としていく。	【期末報告】 基準日の関係により、学科別ST比については年度内の変動はないが、次年度入学者数によっては変動が生ずる可能性を残す。	B	60%
	大学として求める教員像・要件の明確化	人事課	大学として求める「教員像・要件」の一つとして「鶴見大学教職員の行動規範」の更なる浸透を図る	「鶴見大学教職員の行動規範」を受け、特に倫理規範について具体的な定めのたたき台を執行部へ提案していく。	【期末報告】 懲戒等を含めた各種の個別案件に対応することで、倫理規範の浸透について改めて進めていく必要性を実感する。	B	50%
	教員組織の編制方針の策定・運用(業績・年齢・男女比等の不均衡是正)	人事課	5年後を見据えた教員組織について、その編成方針決定のための基礎資料を提供する	教員組織編制の一助として、各学科所属教員の年齢、男女比等についての基礎資料や、その他有効な資料を執行部へ提供していき、必要な情報を提供できるべく業務体制を整える。	【期末報告】 文学部、歯学部、短期大学部の当年度版(4月1日現在)については完成しているが、次年度版については作成継続中である。	B	70%
職員組織の質向上	大学として求める職員像(資質・能力)の明確化	人事課	大学が求める職員像について見える化していく	各階層における職員像に関する具体的な議論を行い、職位に合った職員像を明確化し執行部に提案し、承認をえたものについて学内周知に努める。	【期末報告】 急遽決まった中途採用の実施に向けて、検討してきたものを織り交ぜながら大学が求める人材を決定しこれを基に公募していった。	B	70%
	職員の人材育成方針の策定・運用	人事課	継続的な階層別研修の実施	階層別研修の実施環境(研修会場等)を確保し、これまでの研修で培ってきた各職員の「意識」をさらに引き出していく。鶴見大学という組織の一員として、個の力をより良く発揮でき、気付けさせるような研修を実施していく。	【期末報告】 施設の関係もあり、階層別研修は前半で完了させた。後半については、①高等教育機関における障害学生支援と合理的配慮、②安心して働ける職場づくりに向けたハラスメント対策という2つのテーマでUD研修を実施した。	A	90%
	職員の評価・処遇の公平性確保(脱年功制)	人事課	求める「職員像」を明確化し、これに伴う基準の整備につなげる	「1-6-1 大学として求める職員像(資質・能力)の明確化」と連動させ、脱年功制に向けた議論の素地となる基準の整備を行う。	【期末報告】 中途採用に際して、大学として求める人材を明示することができたが、明確な「職員像」作成には至っていない。	B	60%
	組織再編と各部門における職務分掌の見直し・明確化	総務課	組織再編と各部門における職務分掌の見直し・明確化	組織再編を行った事により、機能的な組織を構築していく。	【期末報告】 総合的には実施に至っていないが、各部署において工夫行っている。	C	0%
	勤怠・出張・交通費等管理の効率化	人事課	システムの安定的運用	運用開始から2年目、3年目のシステムについてより安定に、より効率的に運用し、時間外労働の軽減に努める。	【期末報告】 勤怠システム、旅費システムは概ね問題なく運用できている。カスタマイズに及ばない範囲で修正できるものについては対応してきている。昨年末に2年目を迎えた年末調整システムについても、過去データの蓄積により当初よりも利用者にとって利便性が向上しており、3年目を迎える今年度についても問題なく運用できるものと想定している。旅費システムに関して、その使用に異を唱える人もいたが、最終的にこのシステムにて処理を行うことができ、現在は問題なく業務が進んでいる。	A	90%
	採用要件(資格・能力等)の明文化と公募による優秀な人材確保	人事課	財務状況をにらみつつ、可能な限り採用を進めていく	職員採用に関して、計画的適切に進めていく。	【期末報告】 理事長より事務職員の中途採用について承認を受け公募した結果、数百名の応募があり、2024年度中に人材の確保を済ませた。入職した職員の方々に期待したい。	A	90%

【V. 大学運営】 2.経営基盤の強化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
収支バランスの回復に向けた財政運営	将来像に合わせた中長期財政計画の策定	経理課	学園の財政再建計画に基づく中長期財政計画の更新 財政基盤の安定を目標に教育活動資金収支差額のマイナスを均衡させ、経常収支差額のマイナスを減少させる。 経営資源の構築を図り将来を見据えた教育・研究基盤の強化を進める。 また、支出抑制のため、物件費等の諸経費の節減・見直しを図り、限りのある財源を効果的に活用する。	収支改善に向けた具体的な中長期財政計画の策定と実行及び収支構造の見直し、経営改善に向けた予算策定と執行を行う。	【期末報告】 収支バランスの回復に向けた取り組みとして、予算の管理・執行状況および支出内容の確認と計画的な執行を実施した。 令和7年度予算編成において、財源の確保に注力するとともに、限られた財源を効果的に配分するため、事業の必要性や優先順位を精査した。主に教育の質を維持し、定員確保に向けた募集広報や魅力ある教育環境の整備を盛り込んだ予算とした。	B	70%
	費用対効果を意識した事業の精査・効率化	経理課	・経常収支バランスの回復に向けた財政運営 ・中長期計画に基づく令和7年度予算の策定	・令和6年度予算の適切な執行管理と固定費の精査 ・持続的な発展に向けて、財務体制の整備を進める。	【期末報告】 令和7年度予算編成では、経常収入の減少により限られた財源の中で事業の優先順位を明確にした予算とした。主に教育の質を維持し、学生定員確保に向けた募集広報や魅力ある教育環境の整備を盛り込んだ。また、固定費に係る費用を精査し、関係部署と連携して見直しを進めている。 ※根拠資料あり	B	60%
	周辺業務の非専任化やアウトソーシングの推進、事業法人化	事業推進課	[事業推進課]多角的な収益を図るため、学校法人が出資する事業会社を検討し、設立する。 [総務課]業務の効率化や人件費の抑制を図るため、各部署の周辺業務を把握し、非専任化やアウトソーシングを推進する。	[事業推進課]事業会社設立にかかる手続きを順次進めていく。 [総務課]周辺業務の非専任化やアウトソーシングを各部署に先駆け推進する。	【期末報告】 [事業推進課]理事会で承認された事業会社(株式会社相承)を設立することができた。初年度は、施設貸出受付、自動販売機管理、卒業貸衣裳幹線の3つの業務を基本業務とし運営していく。 [総務課]事業推進課を主体に、事業会社(株式会社相承)を設立した。各部署の非専任化についてはそれぞれの業務体制に応じて進めている。	S	90%
	ホール、運動場、会議室、空き教室等大学保有施設の外部有効利用	管財課	[管財課]授業等に支障をきたすことがないように、地域貢献の一環として外部が利用できるように調整する。 [事業推進課]外部利用者数を増加させるため、外部者向けの情報発信を拡大する。	[管財課]申込に対し、可能な限り対応できるように学内を調整し、申込団体と協議の上、利用できるようにする。 [事業推進課]大学ホームページの更新や、過去に貸出実績のあった模擬試験実施企業等に情報発信を実施する。	【期末報告】 [管財課]2024年度の貸出件数:記念館(ホール・講堂)51件、1号館19件、2号館6件、4号館4件、5号館2件、体育館2件、荒立グラウンド10件、師岡グラウンド18件、獅子ヶ谷グラウンド20件 [事業推進課]オープンキャンパス・入試等の学校行事に影響のない範囲で132件の外部への貸出を実施した。	A	80%
	病院(医療)収入の増加と支出の抑制	病院事務部	・昨年度に引き続き、業務委託契約内容の見直しを図り委託費を削減する。 ・T-DECを活用し外注技工費を削減する。 ・周術期口腔機能管理の患者数を増やし、増収に繋げる。 ・消耗品の消費・在庫管理を一括管理し、死蔵・過剰在庫の解消およびコスト削減を図る。 ・保険診療請求の適正化による増収。 ・保険診療外収入の拡充。	・業務委託業者とのヒアリング ・SPD(院内物品管理)の本格稼働 ・医療保険委員会委員による定期的カルテ記載指導の実施。 ・高額自費診療(インプラント科、矯正科)の整備。	【期末報告】 ・コンサル業者による業務委託業者へのヒアリングを実施し、次年度の契約料金の見直し・削減を行った。 ・SPD(院内物品管理)業務委託業者を選定。次年度より稼働。 ・医療保険委員会委員による定期的カルテ記載指導を実施。 ・矯正科ユニット1台更新。 ・次年度は収益性の高い部門の体制強化を進める予定。 ※根拠資料あり	A	80%

【V. 大学運営】 3.同窓会との連携強化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
同窓会と連携した学生支援や大学運営	R4(新)同窓会と在学生のコミュニケーション強化	学生支援課	[学生支援課]在学生に同窓会準会員であることを認識してもらい、同窓会を身近に感じてもらう。 紫雲祭とホームカミングデーとの合同開催をする。 [キャリア支援課]歯学部同窓会からの歯科衛生士求人等を一般と分けて提供。	[学生支援課]同窓会奨学生の円滑な選考。紫雲祭パンフレットへの挨拶文等の掲載 [文短同窓会]紫雲祭への参画。卒業年次生からの役員選出を円滑に行う。 [歯学部同窓会]アルバイト求人、正規雇用求人への掲出協力。 [キャリア支援課]歯学部同窓会からの歯科衛生士求人等を一般と分けて提供。	【期末報告】 [学生支援課]両同窓会からの紫雲祭への援助及びパンフレットへの挨拶文掲載。 文・短同窓会は昨年引き続き紫雲祭への企画参加をしていただいた。また、文・短同窓会は紫雲祭2日目にホームカミングデーを開催し、多くの同窓生が来場した。例年、文・短同窓会事務局から依頼がある幹事の推薦について、卒業年次生で主に文・短同窓会奨学生に選考された学生を中心に声掛けをし、文・短各学科1名ずつの幹事を推薦できた。 [キャリア支援課]歯学部同窓会経由での歯科衛生士求人(同窓生運営の医院)を他医院と区別して提供(2024年度の同窓会経由での求人数0)	B	70%

【V. 大学運営】 3.同窓会との連携強化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
同窓会と協働で行うイベント・学生募集	ホームカミングデーの開催	総務課	ホームカミングデーの開催	同窓会と関係部署と連携しながら計画及び実施をしていく。	【期末報告】 紫雲祭開催時に文・短同窓会、歯学部同窓会はホームカミングデーを実施、文・短同窓会の会場作りを協力。	A	50%
	同窓生の優遇措置	入試センター事務部	歯学部では同窓会からの要請を受けて同窓会推薦の推薦資格を同窓生の「子女」から「親族」へ拡大した。新入生特待奨学生制度について広く周知し、歯学部同窓会推薦入試の受験者増、同窓会長推薦の入学金減免制度の利用者増を狙いたい。短大部では昨年度から実施の短大部同窓会推薦入試についての周知強化を行う。	歯学部同窓会、文短同窓会と連携を図り、DMの発送等積極的に展開する。	【期末報告】 ・歯学部同窓会推薦入試では1名、総合型選抜における同窓会推薦制度の利用1名、編入学試験における同窓会推薦制度の利用1名の入学があった。 ・短期大学部同窓会推薦については志願者が出なかった。	B	70%

【V. 大学運営】 4.機能的で心地よい学修空間づくり

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
地域や街の文化と融合したキャンパス景観づくり	仏教の魅力を伝える教育機能・文化施設の整備	管財課	キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、計画の中にコンセプトを反映していく。	キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修等の計画を策定する。	【期末報告】 キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の修繕・改修等の計画にコンセプトを反映可能な部分は反映し、引き続き策定していく	C	10%
	学生の憩いの場(カフェ・ラウンジ・広場)がある居心地の良いキャンパス作り	管財課	[管財課]キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、計画の中にコンセプトを反映していく。 [事業推進課]地域や街、他大学等の情報を収集し、学生が勉学の他に求める憩いとなるものを検討していく。	[管財課]キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修等の計画を策定する。 [事業推進課]施設の修繕・改修計画に学生の憩いの場を確保できるよう検討し、提案する。	【期末報告】 [管財課]学食を使いやすく居心地の良いスペースへとリニューアルを行った。また、1号館女子トイレを清潔で快適なリフレッシュできる空間へと内装改修を行った。 [事業推進課]学食リニューアル及び1号館女子トイレ内装改修に際し、学生にとって使い勝手がよく、居心地が良いと感じられるような空間となるよう管財課と協力した。	A	70%
	誰もが安心して過ごせるバリアフリー化やセキュリティ強化	管財課	[管財課]キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、計画の中にバリアフリー化やセキュリティ強化が図れるように反映していく。 [包括支援課]学内のバリアフリーマップを作成する。	[管財課]キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修等の計画を策定する。 [包括支援課]ボランティア学生を募り、バリアフリーマップを作成する。	【期末報告】 [管財課]学生会館の一部バリアフリー工事を4月完成に向けて進行中。 [包括支援課]課外活動公認団体「情報バリアフリー推進会」協力のもと、学内のバリアフリーマップを作成した。	B	40%
	機器・設備の統一化・標準化による維持・管理の効率化	管財課	授業等に支障のないように経年劣化による老朽化、不具合が多発している機器備品等の更新を行い、維持・管理に努める。	・1号館PC・AV機器更新 ・4号館受変電設備(2年次計画2年目) ・記念館非常発電機更新 ・記念ホール音響設備更新 ・附属病院診療室・2号館電灯盤取替 ・学生会館EV更新及びバリアフリー化	【期末報告】 ・2号館...基礎実習室1・2マルチメディアシステム、1階電灯動力盤、示説室AV設備機器更新。 ・3号館...生理・薬理実習室AV設備機器、3-1講堂AV設備機器更新。 ・4号館...低圧電気幹線設備更新。 ・5号館...201、301教室AV設備機器更新。 ・6号館...受変電設備更新。 ・記念館...非常用発電機、受変電設備及びホール音響設備更新。学食券売機を新紙幣・キャッシュレス対応機に更新。 ・病院棟...コンプレッサー及びコンプレッサー用冷却塔、3階電灯盤更新。 ・学生会館...トイレ和便器を洋便器へ改修。EV更新及び一部バリアフリー化は4月の完成に向けて進行中。	A	50%

【V. 大学運営】 4.機能的で心地よい学修空間づくり

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画進捗状況自己評価	中期計画全体の進捗割合(%)
	アクティブラーニングを促すフレキシブルな学習環境整備	管財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、アクティブラーニングを促すフレキシブルな学習環境となるよう計画していく。</li> <li>・大学の学習空間の整備計画に合わせた、ラーニング commons の整備、運用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修等の計画を策定する。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急性の高い各所修繕・改修は順次行った</li> <li>・ラーニング commons 1 に書架を増設し多読学習の機能向上を図った。</li> </ul>	A	80%
図書館等での効果的な学修空間づくり	図書館などの利便性向上による利用率拡大	図書館事務室	<p>在学生に対しては、図書館外の施設で図書館の各種情報を案内し、来館動機付けの促進を図る。</p> <p>学外者に対しては、鶴見区との連携による地域住民の図書館利用について、事前登録制を採用し、貴重書展や各種イベント等の情報を積極的に報知し利用者拡大を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学食等にサイネージを設置し、図書館のイベント情報等を積極的に周知する。</li> <li>区民利用の事前登録制を実施する。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> 鶴見区民の事前登録制による利用について、継続利用希望の方の利用申請書の簡略化を実施しサービス向上を図った。	B	50%
	グループ学習エリアなどの勉強しやすい空間の拡充	管財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、グループ学習エリア等の勉強しやすい空間を拡充できるような計画を検討していく。</li> <li>・学修空間の拡充のために、インターネットで代替可能な雑誌の特定・不要図書の除籍を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修計画を策定する。</li> <li>・3年計画の1年目として、除籍可能な学術雑誌の特定を進める。</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急性の高い各所修繕・改修は順次行った。</li> <li>・除籍可能な他大学紀要を特定し廃棄処分とした。学術雑誌の特定作業については継続して実施中である。</li> </ul>	A	80%
環境及び防災に配慮した機能の整備	横浜市・總持寺と連携した防災機能の強化	管財課	<p>横浜市との「大規模地震等の災害時における避難施設の提携協力に関する協定」(平成25年度締結)及び「災害時における施設等の提供協力に関する協定」(平成26年度締結)に基づき、帰宅困難者の一時滞在施設となっている。横浜市より帰宅困難者用(500人分)の備蓄品の受け入れを行っているため、腐食等のないよう適切に備蓄する。また、本学独自の災害対策備蓄用品・非常食等については、1号館・2号館・体育館に整備しており、同様に腐食等のないよう適切に備蓄し、非常食が賞味期限切れとならないように廃棄及び新規分の購入を行う。また、2021年度より実施したフードバンク神奈川への寄付は継続して行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災備蓄品の在庫調査</li> <li>・非常食の賞味期限時期の管理</li> <li>・非常食の廃棄及び新規購入</li> <li>・非常食のフードバンク神奈川への寄付</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学独自の備蓄品の在庫、非常食の賞味期限時期を調査し、賞味期限を迎える備蓄品を学園祭で学生や近隣住民に配布。また、フードバンクへも寄付を行い、その補填分を新たに購入し備蓄した。</li> </ul>	A	80%
	省エネ化と太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用推進	管財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各所設備機器の更新に合わせ、高効率型への更新、蛍光灯のLED化を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各所設備機器の更新に合わせ、高効率型危機への更新、蛍光灯LED化を実施する。</li> <li>・記念館空調設備の更新</li> </ul>	<b>【期末報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○照明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館一部女子トイレの照明をLEDに更新。</li> <li>・病院棟病理診断室及び2号館口腔衛生学研究室の蛍光灯をLEDに更新。</li> <li>・記念館ホワイエ高天井照明をLEDに更新。</li> <li>・大学会館A階段照明をLEDに更新。</li> </ul> </li> <li>○空調 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1号館1階ロビー、教務課系統を高効率型へと更新。</li> <li>・記念館空調については、R7からの更新工事に向けて進行中。</li> </ul> </li> </ul>	A	60%